

第 59 回全国漆器展

審 査 講 評

2 0 2 4



§ 目次 §

§ 目次	1
§ 審査総評	2
§ 審査講評	
-産業工芸品部門-	
経済産業大臣賞、経済産業省製造産業局長賞	4
日本経済新聞社賞、家庭画報賞	4
(公財)日本デザイン振興会賞、(一財)生活用品振興センター理事長賞	5
(特非)食空間コーディネーター協会賞、日本漆器協同組合連合会理事長賞	5
審査員特別賞、奨励賞	6
-美術工芸品部門-	
農林水産大臣賞、林野庁長官賞	8
(株)商工組合中央金庫社長賞、家庭画報賞	8
(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞、(一社)日本百貨店協会会長賞	9
(一社)日本漆工協会理事長賞、全国漆業連合会会長賞	9
審査員特別賞、奨励賞	10
-特別テーマ部門-	
日本漆器協同組合連合会理事長賞	12
§ 審査関係	13
出品産地	14
審査員	14
審査方法と結果	15
§ 参考資料	19
歴代大賞受賞一覧 (個人賞)	20
歴代受賞一覧 (団体賞)	24

§ 審査総評 §

～漆器産業を再び世界へ～

この展覧会の出品に向けて、日本各地の漆器関係者が紡いできた長い時間とその努力に敬意を表します。審査会の当日少し早く会場入りして、陳列をする際に拝見し、これだけの力作が集まるのだから、日本は再び強く立ち上がれると確信を持ちました。一点一点から奔り出るエネルギーを感じたのです。

日本へ来る海外の人が飛躍的に伸びています。歴史の中で考えると、日本は魅力ある漆器を作る国として、海外から垂涎の目で見られていたのです。これは私たちの先輩方の日々の努力の結果なのです。再び海外に漆器産業を売り出しましょう。軽くて丈夫で、生活の中に溶け込み、使われながら美を増していく漆器が日本を再び作ります。

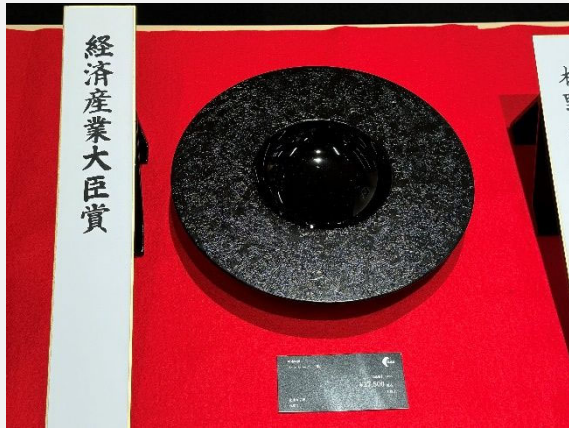
審査員の顔ぶれが多彩で、多角的な観点からの審査風景は、清々しいものがあります。作品の産地や作者などの情報は一切明らかにされない中、審査員は会話をせず、自分が良いと思うものに票を投じていきます。最後の賞を決める時に初めて審査員同士がなぜこれが良いかについての話し合いを行います。

三部門の入賞した方、入賞候補であった多くの作品が皆様の手元を離れて、新たな地で時を繋いでいくこと、素晴らしいことです。来年は60回の記念展です。手に入れたい、使いたい、横に置いておきたいと思われる作品を今から構想していただきたく思います。



第59回全国漆器展
審査員長 三田村有純 記

産業工芸品部門
受賞作品



経済産業大臣賞

[カッシーニ 黒]

攝津 広紀（川連漆器）

産業工芸品部門審査員の中で、一番評価が高かった作品です。和をモダンに捉え、見た目もスタイリッシュ。料理が盛り付けられた状況を想像すると、その盛り付け方に様々な可能性を感じ、面白い提案だと思いました。和、洋、どちらの世界感でも料理を引き立ててくれます。



経済産業省製造産業局長賞

[木曾漆器 産地オリジナル飯椀「まゆまり」]

木曾漆器工業協同組合（木曾漆器）

古典的な手法でありながらもモダンな空気を纏った作品です。一般に良く見る飯椀、汁椀とは少しかたちが違うことで、様々な料理にも使用出来そうだと感じます。料理人や漆器好きな方々と共に意見を出し合い試食会も経て創りだしたカタチ「まゆまり」。新しく楽しい漆器の世界を感じました。



日本経済新聞社賞

[一人前 セット椀]

株式会社吉輝（山中漆器）

1人用のセット椀です。日常使いの機能面から見ると、収納はとても大切な要素です。1人分が1まとめになる工夫は伝統的なものではありませんが、今の時代にも通ずる、または今の時代だからこそその素敵なデザインと感じます。重ね椀ひとつひとつにしっかりとデザインされた個性があり、好感が持てます。



家庭画報賞

[尺4おが目胴張もてなし盆]

古村富士夫（越前漆器）

漆器は使用を続けることで、時間が素材を素敵な風合へと結びつけ、デザイン上のアクセントへと変えていきます。このおもてなし盆も、各所にその可能性を感じます。今回審査員間で評価が高かったのは、とくにこの胴張（側面が膨らんでいる）を意匠としまとめられたデザインです。緊張感、潔さの中に豊かさ、暖かさを感じる造形で、持つ喜び、使う喜びが続くことと思います。



公益財団法人日本デザイン振興会賞

[ウスビキライト]

守田漆器株式会社 (山中漆器)

生地を極限までうすくすることで光が木を透過し木目を浮き立たせる、温かみのある照明です。山中漆器の生地の薄引き技術があってこそ成立するデザインです。KINOKO タワーの支柱部分、またマルL (吊り下げ照明) の照明カバー部分はろくろを使用した加飾挽きとなっており、照明が点いた時の陰影の豊かな表情に、高い技術を感じます。



一般財団法人生活用品振興センター理事長賞

[カップ パッション]

加藤 尚人 (川連漆器)

図柄のデザインに優しさを感じ、所持することの喜びを感じられる作品です。審査員の方々からも、模様が好きで私も欲しいという意見が多くありました。持つと軽くて、漆器の特徴がよく出ています。海外の方に対しても漆器の素晴らしさをアピール出来ると感じる秀作です。



NPO 法人食空間コーディネート協会賞

[樗ひねり鉢 朱黒セット]

吉田漆器工房 (輪島塗)

使い方次第でいろいろな料理の、様々な面白い魅せ方が出来そうで想像が膨らみます。この造形は、薄引きの鉢を熱で歪ませているとのこと。ちょっとした造形の遊びが、食空間に豊かさを加えます。更に、大きさに対する軽さも驚きのポイントでした。技術があってこそその表現です。



日本漆器協同組合連合会理事長賞

[もてなし高杯 赤・黒]

有限会社中出漆器店 (山中漆器)

小鉢、盛り皿を単品で使用することも出来、お客さんの来るような大きなテーブルでハレの日の演出には高杯として料理を魅せることも可能。2つの顔を持つ漆塗りの器です。盛り皿底面には窪みがあり、小鉢にピタっとはまり安定します。かわった器のようで実用的な面も持つ、デザイン面でも優れた漆器です。



審査員特別賞

[フリーカップ 彩象谷 (ワイン・緑)]

有限会社森嘉吉商店 (香川漆器)

しっかりと丁寧に造られたカップです。色も繊細で美しく、またデザインとしての側面の窪み模様が、光と影の素敵な表情を生み出しています。この凹凸によりテーブルからの反射光も作品の表現要素に組み込まれ、食空間に見事に調和します。日常使いに、またプレゼントにも喜ばれると感じる、持つことの喜びを感じる逸品です。



奨励賞

[陶漆 羽反もてなしカップ6色カラー]

岩上 平蔵 (越前漆器)

色使いが食卓を彩ります。側面の陰影がとても素敵で、形状が漆の濃淡に反映されているところも魅力です。器の縁の部分が薄くなっていて、それが飲みやすさに繋がっています。持ちやすいし飲み心地も良い。日常の使用にもお勧めです。また、セットとしてプレゼントにも良さそうです。



奨励賞

[折敷 霞の膳2枚セット]

株式会社駒井漆器製作所 (高岡漆器)

折敷として、敢えてデザインを渋めに攻めているところが魅力に繋がっています。このキャンバスの上に料理をデザインすることを考えると、とてもワクワクします。意図的に古びた表現としていますが、料理が加わることでモダンな表現へと変貌します。



奨励賞

[金と黒の椀]

黒滝 茂美 (津軽塗)

柄がとても美しい。照明が当たった時の側面の光りなどは内に秘めたものを持っていると感じられ、所有したら大切に扱いたい、大切に育ててゆきたいと思えました。津軽塗の新しい魅力を感じる作品です。

美術工芸品部門
受賞作品



農林水産大臣賞

[千家盆「源氏物語」]

橋本 一弘（越前漆器）

和食にも洋食にも展開でき、使う者の夢を広げるお洒落な作品である。間の空け方が秀逸で、色彩を使っているが器に馴染んでいること、上に乗る料理を邪魔しない点などの評価が高かった。技術的にも蒔絵の線描は繊細で美しく、目をひく秀作である。



林野庁長官賞

[盛器 さくら十変化]

有限会社中出漆器店（山中漆器）

10枚の樺の板材を薄く、歪みなく轆轤挽きする技量は文句なく素晴らしい。サンドブラストにより施された桜の花びらを含め、空目を活かした擦り漆による表情は美しい。大きなテーブルなどに一堂に並べても華やかになるし、スタッキングして上に料理を置くななど多彩な使い方を楽しめる作品である。



株式会社商工組合中央金庫社長賞

[夏から秋へ いちょう小箱]

松原 紗霧（越前漆器）

身と蓋の側面全体に青海波模様の場面と、蓋表面に銀杏の葉が重なり合っている様を二方向から配した図案力が見事である。重なりと奥行きを感じさせる沈金の彫り込み、金粉をぼかして入れる感性が優れている。丁寧に作っているところが好感を持てる。内側に布を貼らない方が使う側がさまざまな面で使えるとの評もあった。



家庭画報賞

[市松紋タメ塗3段手提げ重]

小橋 敬一（越前漆器）

板物素地を作る段階、下地から最後の塗りまで作者の一貫制作である。どの工程も丁寧に作られ、使う側がさまざまなシーンで展開できる優作である。三段の重箱も、手提げも僅かに色味の違う塗り分けがなされており、互い違いの市松模様が美しい。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞
 [鉄瓶糸目 (中) 「春秋蒔絵」]
 有限会社竹むら漆器店 (江戸漆器)

鉄瓶全面に春を桜、秋を紅葉で蒔絵を施し、その上に透明な漆を塗り重ねて、丁寧に研ぎ、磨き上げる。奥行きある画面はとにかく美しい。鉄素材の上に纏った自然塗料である漆の塗膜層が、優しく暖かな雰囲気を出し出す。



一般社団法人日本百貨店協会会長賞
 [銚子 虹彩 螺鈿]
 上原 千紘 (高岡漆器)

南蛮縞と思わせる細い薄貝を身と蓋に放射状に貼り、赤系統の漆を塗り込み、螺鈿の部分を剥がして完成させる。貝の光の活かし方が可愛らしく、印象的である。木製のお銚子の出番は近年少ないのだが、逆に新しさを感じるこの作品が醸し出す酒宴に参加したいと思う。



全国漆業連合会会長賞
 [螺鈿漆盃 潜水・深海・閃光・花]
 武蔵川 剛嗣 (高岡漆器)

盃の内側に線や小さな円に加工した貝で、四つの名前を表すデザインをイメージするように、丁寧に仕上げられている。清酒を中に入れると螺鈿が奥の方から輝き、持ち上げたまま、しばし眺めていたいと思わせる盃である。



一般社団法人日本漆工協会理事長賞
 [尺2羽反大皿]
 山田 秀樹 (越前漆器)

広く羽反の縁を持つ器は36センチの存在感ある堂々とした漆器である。内側の平らな部分は黒漆に塗られ、周りに螺鈿を散りばめ、羽反の部分はメタリックな青色の漆を塗り、実に魅力的にまとめられている。



審査員特別賞

[四季重 金銀忍沈金]

松本石太郎工房（輪島塗）

全面を黒の呂色面に仕上げた上に蓋の一部と身の一部に沈金を施し、効果的に金と銀の模様をつける。蓋を取ると内部には朱漆と黒漆の小皿が配されており、華やかな展開で、視覚効果が美しい。中の皿が取り出しにくいことは残念である。



奨励賞

奨励賞

[梅花盛器]

真保 直行（越前漆器）

30センチを超える大ぶりの器、全面を覆い尽くすように梅の古木と花が描かれる。螺鈿を効果的に使い、漆で立体的に盛り上げられた枝や花の絵描き方はインパクトがあり、秀逸である。飾り盆としても、実際に物を載せて、少しずつなくなることで見えてくる使い方に夢を感じさせる。



奨励賞

[乾漆 8角隅切盆 3枚組]

堀 由一（越前漆器）

乾漆造形で、平らな面を作り上げていく技術、縁の造形が作者の豊かな感性で表現できていることが高く評価される。漆の塗りは豊かな表情を醸し出し、柔らかなフォルムを際立たせている。



奨励賞

[六方紋菓子皿]

斉藤 慎二（高岡漆器）

16センチの手頃なサイズで、粋でお洒落な作品である。石目塗りでマットにした上に、万華鏡から覗いたかのような放射線に伸びる模様を配する、5枚がそれぞれ別な模様となり、黒漆の艶のない表情と錫粉による平蒔絵の対比が美しい。

特別テーマ部門
受賞作品



日本漆器協同組合連合会理事長賞
 [縞（しま）漆カップ]
 黒滝 茂美（津軽塗）

少し大きさの違う漆器を青系統と赤系統の色をベースに津軽塗りの特徴ある塗りで仕上げている。研ぎ出しで縞模様が縦に現れることによって、器の伸びやかな形状が強調され、多用途に応用できる漆器である。



日本漆器協同組合連合会理事長賞
 [木曽檜天然木 曲物タンブラー・トレー]
 木曽漆器工業協同組合（木曽漆器）

樹齢400年を超える木曽檜を薄い単板にし、曲輪技法にて完成させ、十分に漆を吸わせて、何回も擦り漆重ねた漆器である。タンブラーと器は大きさが各種あり、食卓で使う時に、料理の邪魔をしない佇まいは、好感が持てる。



日本漆器協同組合連合会理事長賞
 [草花絵変りカップ]
 株式会社能作（金沢漆器）

持ちやすい形状のカップに内側から外側の真ん中までを朱漆で、下部は黒漆により暈し塗りで仕上げる。金蒔絵、螺鈿、卵殻技法を駆使して、確かな描線で草花を描く。6点それぞれ個性があり、使うものに夢を与える優品である。

§ 審 查 関 係 §

【開催日時】 令和6年9月12日（木）15：00～18：15

【会 場】 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 大会議室
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-1-2-2 階

【出品産地】 津 軽 塗（青 森 県） 川連漆器（秋 田 県）
 （11 産地） 江戸漆器（東 京 都） 木曾漆器（長 野 県）
 村上木彫堆朱（新 潟 県） 高岡漆器（富 山 県）
 輪 島 塗（石 川 県） 山中漆器（石 川 県）
 金沢漆器（石 川 県） 越前漆器（福 井 県）
 香川漆器（香 川 県）

【審査員】

審査員長	東京藝術大学 名誉教授 三田村有純	
部門	産業工芸品	美術工芸品
審査 部門長	東京藝術大学 デザイン科 准教授 鈴木 太郎	(兼) 東京藝術大学 名誉教授 三田村有純
審査員	経済産業省 製造産業局 生活製品課 企画官 伊藤 裕美	林野庁 林政部 経営課 特用林産対策室長 竹内 学
	江上料理学院 主幹 江上 種英	公益社団法人全国調理師養成施設協会 会長 服部 幸應
	株式会社世界文化社 家庭画報副編集長 松本 詩郎	株式会社世界文化社 執行役員 今井 朗子
	公益財団法人日本デザイン振興会 常務理事 村上 樹人	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事 原田 元
	NPO 法人食空間コーディネーター協会 副理事長 最所 養子	東京藝術大学社会連携センター 特任准教授 今井 美幸
	東京都漆器商工業協同組合 理事長 西山喜一朗	一般社団法人日本漆工協会 理事長 赤堀 郁彦
	日本漆器協同組合連合会 理事長 土田 直	—

(敬称略・順不同)

【審査方法と結果】

各産地の予備審査を経て出品された「産業工芸品部門 51 作品」、「美術工芸品部門 39」、「特別テーマ部門（漆 CUP&TRAY）34 作品」を対象として、審査員は各部門の評価ポイントなどを勘案し、以下の手順で審査を実施した。

審査部門	出品内容	出品条件	審査員	主な評価ポイント				
				市場性	提案性	デザイン性	独自性	技術力
				価格設定、消費者ニーズなど	ターゲットの分かり易さなど	機能性、収納性、美しさなど	独創性、ユニークさなど	卓越した技術、伝統的な技法など
産業工芸品	漆器 合成漆器	新作品 量産品	専任	○	○	○	△	△
美術工芸品	漆器	新作品 少量品	専任	△	△	○	○	○
特別テーマ部門	漆器 合成漆器	過去に受賞歴がないもの	両部門の審査員	△	産業	共通	美術	△

1. 担当部門の 10 作品（特別テーマ部門は 5 作品）を選出。
2. 選出した 10 作品から自身の BEST5 作品（特別テーマ部門は 1 作品）を選出したうえで投票。
3. 投票を集計し、総得票数の上位 16 作品（特別テーマ部門は 7 作品）程度を最終候補作品として、以下の手順で個人賞を決定。

～個人賞の決定手順～

【産業・美術工芸品部門】

産業工芸品部門	分類	美術工芸品部門
経済産業大臣賞 経済産業省製造産業局長賞	①官公庁	農林水産大臣賞 林野庁長官賞
日本経済新聞社賞 家庭画報賞	②メディア・公共機関	(株)商工組合中央金庫社長賞 家庭画報賞
(公財)日本デザイン振興会賞 (一財)生活用品振興センター理事長賞 (特非)食空間コーディネート協会賞 日本漆器協同組合連合会理事長賞	③業界団体	(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞 (一社)日本百貨店協会会長賞 全国漆業連合会会長賞 (一社)日本漆工協会理事長賞
審査員特別賞 奨励賞	④審査会	審査員特別賞 奨励賞

1. 分類①の官公庁賞は、得票数上位 2 作品より各賞を決定した。
2. 分類②のメディア・公共機関賞、分類③の業界団体賞は、得票数上位の残りの作品を対象に、各団体の活動内容や特徴などを考慮して作品とのマッチングを行い、各賞を決定した。

3. 分類④の審査会賞は、得票数 16 番目程度までの残りの作品を対象に、産地や入賞作品のバランスなどを協議したうえで、審査員特別賞 1 点、奨励賞 3 点を決定した。

【特別テーマ部門】

1. 特別テーマ部門においては、得票数上位 2 作品を賞に決定した。
2. 残りの 1 作品は、得票数上位 3～7 番目のなかで決選投票を行い、賞を決定した。

-産業工芸品部門(最終候補 16 作品)-

賞名	品名	出品者	産地
経済産業大臣賞	カッシーニ 黒	攝津 広紀	川連
経済産業省製造産業局長賞	木曾漆器 産地オリジナル飯椀「まゆまり」	木曾漆器工業協同組合	木曾
日本経済新聞社賞	一人前 セット椀	(株)吉輝	山中
家庭画報賞	尺 4 おが目胴張もてなし盆	古村 富士夫	越前
(公財)日本デザイン振興会賞	ウスビキライト	守田漆器(株)	山中
(一財)生活用品振興センター理事長賞	カップ パッション	加藤 尚人	川連
(特非)食空間コーディネート協会賞	櫛ひねり鉢 朱黒セット	吉田漆器工房	輪島
日本漆器協同組合連合会理事長賞	もてなし高杯 赤・黒	(有)中出漆器店	山中
審査員特別賞	フリーカップ 彩象谷(ワイン・緑)	(株)森嘉吉商店	香川
奨励賞	陶漆 羽反もてなしカップ 6 色カラー	岩上 平蔵	越前
奨励賞	折敷 霞の膳 2 枚セット	(株)駒井漆器製作所	高岡
奨励賞	金と黒の椀	黒滝 茂美	津軽
—	一閑張 夫婦飯椀	梶原 伸夫	越前
—	パーティー-ボール Sui NO9 ボルドー/つる葡萄蒔絵セット	(株)本山漆器店	木曾
—	飯椀 赤溜・黒溜	(株)龍門堂	木曾
—	錐 sui	(株)駒井漆器製作所	高岡

-美術工芸品部門(最終候補 16 作品)-

賞名	品名	出品者	産地
農林水産大臣賞	千家盆「源氏物語」	橋本 一弘	越前
林野庁長官賞	盛器 さくら十変化	(有)中出漆器店	山中
(株)商工組合中央金庫社長賞	夏から秋へ いちょう小箱	松原 紗霧	越前
家庭画報賞	市松紋タメ塗 3 段手提げ重	小橋 敬一	越前

賞名	品名	出品者	産地
(一財)伝統的工芸品産業振興協会賞	鉄瓶糸目(中)「春秋蒔絵」	(有)竹むら漆器店	江戸
(一社)日本百貨店協会会長賞	銚子 虹彩 螺鈿	上原 千紘	高岡
全国漆業連合会会長賞	螺鈿漆盃 潜水・深海・閃光・花	武蔵川 剛嗣	高岡
(一社)日本漆工協会理事長賞	尺2羽反大皿	山田 秀樹	越前
審査員特別賞	四季重 金銀忍沈金	松本石太郎工房	輪島
奨励賞	梅花盛器	真保 直行	越前
奨励賞	乾漆8角隅切盆 3枚組	堀 由一	越前
奨励賞	六方紋菓子皿	齊藤 慎二	高岡
—	角盆 翅脈紋(しみやくもん) 螺鈿	上原 千紘	高岡
—	蒔絵付 飾り羽子板 大・小	高島 政治郎	越前
—	原木ちょう子・ぐい呑みセット(白檀塗り)	畠中 信也	越前
—	盛皿「ひまわり」	渡辺漆器店	香川

-特別テーマ部門(最終候補7作品)-

賞名	品名	出品者	産地
日本漆器協同組合連合会理事長賞	縞(しま)塗カップ	黒滝 茂美	津軽
日本漆器協同組合連合会理事長賞	木曾檜天然木 曲物タンブラー・トレー	小島 貴幸	木曾
日本漆器協同組合連合会理事長賞	草花絵変りカップ	(株)能作	金沢
—	SUWARI 陽炎塗 朱・白	(有)浅田漆器工芸	山中
—	マイカップ	黒滝 茂美	津軽
—	樽コーヒーカップセット 赤雲母・黒雲母	(株)龍門堂	木曾
—	カップ&トレー皿 草花沈金	輪島漆器商工業協同組合	輪島

～団体賞の決定手順～

1. 個人得点を産地組合毎に集計した合計に、個人賞毎に設定された受賞加点を加算した総得点の上位より各賞を決定した。なお、10作品を超える出品のある産地組合については、得票上位10作品までを集計の対象とした。

-団体賞(3賞)-

第1位[桂宮賞]	第2位[内閣総理大臣賞]	第3位[日本経済新聞社賞]
越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合

産地組合別ポイント集計表

産地組合名	産業工芸品部門				美術工芸品部門				P 合計	受賞 加点	総得 点
	出 品 数	選 定 P	BEST 5P	小 計	出 品 数	選 定 P	BEST 5P	小 計			
越前漆器協同組合※	9	120	35	155	13	250	75	325	480	165	645
山中漆器連合協同組合	9	180	30	210	1	50	10	60	270	100	370
伝統工芸高岡漆器協同組合※	15	80	30	110	9	130	25	155	265	50	315
木曾漆器工業協同組合	6	120	35	155	2	20	10	30	185	50	235
秋田県漆器工業協同組合	5	120	35	155	1	0	0	0	155	60	215
輪島漆器商工業協同組合	3	50	10	60	6	60	25	85	145	30	175
香川県漆器工業協同組合	3	40	15	55	2	20	5	25	80	10	90
東京都漆器商工業協同組合	0	0	0	0	3	50	10	60	60	20	80
青森県漆器協同組合連合会	1	30	5	35	1	10	0	10	45	25	70
金沢漆器商工業協同組合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20
村上堆朱事業協同組合	0	0	0	0	1	10	0	10	10	0	10

※得票上位 11 作品目以降で集計外となったポイントがある産地組合

※特別テーマ部門については、受賞加点のみ反映

以上

§ 参 考 資 料 §
(歴代受賞一覧)

個人賞大賞 歴代受賞一覧

-経済産業大臣賞(34回までは通商産業大臣賞)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
昭和42年度(1回)	机三点セット	須藤 八十八	青森県漆器連合会
昭和43年度(2回)	キンマ線模様棚	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和44年度(3回)	六角重箱	山本 英明	越前漆器協同組合
昭和45年度(4回)	杉盆	佐藤喜久治	秋田県漆器工業協同組合
昭和46年度(5回)	飾棚キンマ	香川漆器組合	香川県漆器工業協同組合
昭和47年度(6回)	角丸盛器	向 栄蔵	神奈川県漆器連合会
昭和48年度(7回)	40cm 鏝型研出絵会席膳	(株)丸産	富山県漆器商工業協同組合
昭和49年度(8回)	手提重	須藤 哲朗	青森県漆器協同組合連合会
昭和50年度(9回)	木曾檜割子弁当セット角	城取 邦雄	長野県木曾漆器工業協同組合
昭和51年度(10回)	文机セット	神田 尚彦	青森県漆器協同組合連合会
昭和52年度(11回)	飾棚 妙高ケヤキ	香川漆器組合	香川県漆器工業協同組合
昭和53年度(12回)	八角三段重取皿長型盆	駒井留次郎	富山県漆器商工業協同組合
昭和54年度(13回)	ドレッサ	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和55年度(14回)	炬燵盆	加藤 芳郎	富山県漆器商工業協同組合
昭和56年度(15回)	胴張盆付茶椀	関 盛夫	会津漆器協同組合連合会
昭和57年度(16回)	乾漆輪花盆	助田 敏一	越前漆器協同組合
昭和58年度(17回)	八角茶櫃線入セット	駒井 一夫	伝統工芸高岡漆器協同組合
昭和59年度(18回)	飾棚	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
昭和60年度(19回)	デスクウェアー波模様彫りセット	般若 剛	伝統工芸高岡漆器協同組合
昭和61年度(20回)	菓子鉢 7寸変り筋	三木再城商店	山中漆器連合協同組合
昭和62年度(21回)	妹乾漆座卓蓋線入	(有)かく丸漆器問屋	木曾漆器工業協同組合
昭和63年度(22回)	金箔卓	中沢 義孝	東京都漆器商工業協同組合
平成元年度(23回)	座敷机銀河	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成2年度(24回)	妹・溜おもてなしセット	金川 明	会津漆器協同組合連合会
平成3年度(25回)	チェスト	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成4年度(26回)	金環触の宴	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成5年度(27回)	チェスト彩香 20サイズ ウルミ漆塗 彩色塗分け	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成6年度(28回)	キャビネット 紫舟 30	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成7年度(29回)	線彫 白檀塗 大鉢	亀田 泉	山中漆器連合協同組合
平成8年度(30回)	飾棚(清楽)	(株)モリシゲ	香川県漆器工業協同組合
平成9年度(31回)	サイドボード”春光”	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成10年度(32回)	チェスト グレー塗分線キンマ	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成11年度(33回)	お好み重	佐藤伊右衛門商店	秋田県漆器工業協同組合

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成12年度(34回)	KASANE パーティートレイ ミレニウム	手塚 英明	木曾漆器工業協同組合
平成13年度(35回)	ローテーブル 紬 (B)	天野漆器(株)	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成14年度(36回)	吹上 会席膳 紬 五彩	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成15年度(37回)	盛器銘々皿セット 6点1組	市中漆器工房	輪島漆器商工業協同組合
平成15年度(38回)	座テーブル「月光」ダークグリーン漆塗乾漆塗	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成16年度(39回)	パーティー重 2段	大橋呂色店	輪島漆器商工業協同組合
平成17年度(40回)	三つ足盛器	清水 正義	越前漆器協同組合
平成18年度(41回)	八角形 二段重 平台付	加藤漆器店	輪島漆器商工業協同組合
平成19年度(42回)	小箱波シリーズ(櫛目研出し)	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成20年度(43回)	銀彩 酒器セット	摂津 広紀	秋田県漆器工業協同組合
平成21年度(44回)	飾り棚「紫苑20」彩色塗分 春の詩の図	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成22年度(45回)	テーブル「麗風」	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成23年度(46回)	KOTON black V, (Y), (U)	我戸 正幸	山中漆器連合協同組合
平成24年度(47回)	テーブル折脚 風紋	森 康一	香川県漆器工業協同組合
平成25年度(48回)	二段重箱	白川 勝義	青森県漆器協同組合連合会
平成26年度(49回)	飾皿(皿立付) 十二支 螺鈿・蒔絵	天野漆器(株)	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成27年度(50回)	カップ・コースター付 外木地呂内側銀地	山田 秀樹	越前漆器協同組合
平成28年度(51回)	会席膳 五彩	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成29年度(52回)	引き出し(大・小)と小箱	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成30年度(53回)	重箱(取り皿付)	秋元 勝彦	青森県漆器協同組合連合会
令和元年度(54回)	JUBACO	山口 怜示	越前漆器協同組合
令和2年度(55回)	八角盆(彩)3点セット	畑 勝日佐	伝統工芸高岡漆器協同組合
令和3年度(56回)	カフェボウル カラータイプ	(有)イシオカ工芸	青森県漆器協同組合連合会
令和4年度(57回)	櫛 六ツ組 信玄弁当 独楽	(有)中出漆器店	山中漆器連合協同組合
令和5年度(58回)	香川漆器 漆下駄「Siccok」	一和堂工芸(株)	香川県漆器工業協同組合
令和6年度(59回)	カッシーニ 黒	攝津 広紀	秋田県漆器工業協同組合

-農林水産大臣賞(12回から交付)-

年度(回)	品名	生産者	産地組合
昭和42年度(1回)	—	—	—
昭和43年度(2回)	—	—	—
昭和44年度(3回)	—	—	—
昭和45年度(4回)	—	—	—
昭和46年度(5回)	—	—	—
昭和47年度(6回)	—	—	—
昭和48年度(7回)	—	—	—
昭和49年度(8回)	—	—	—
昭和50年度(9回)	—	—	—
昭和51年度(10回)	—	—	—
昭和52年度(11回)	—	—	—
昭和53年度(12回)	茶椀	若島 孝雄	輪島漆器商工業協同組合
昭和54年度(13回)	開重	白木屋漆器店	会津漆器協同組合連合会
昭和55年度(14回)	卓上膳セット	(株)白木屋漆器店	会津漆器協同組合連合会
昭和56年度(15回)	盛器セット	柴田 利男	青森県漆器協同組合連合会
昭和57年度(16回)	角盆彩キンマ	文新堂漆器工業(株)	香川県漆器工業協同組合
昭和58年度(17回)	丸卓七々子	須々田清彦	青森県漆器協同組合連合会
昭和59年度(18回)	楕円座卓	斉藤 満	青森県漆器協同組合連合会
昭和60年度(19回)	フロアースタンド	(株)森嘉吉商店	香川県漆器工業協同組合
昭和61年度(20回)	末広丸型卓上膳	斉藤 満	青森県漆器協同組合連合会
昭和62年度(21回)	溜八角オードブルセット	若木会 照井克彦	会津漆器協同組合連合会
昭和63年度(22回)	丸箱膳	有馬 功	青森県漆器協同組合連合会
平成元年度(23回)	引出箆筒紋紗塗	(株)田中屋	青森県漆器協同組合連合会
平成2年度(24回)	御膳七々子塗	白川 明美	青森県漆器協同組合連合会
平成3年度(25回)	大盛鉢	佐竹 康宏	山中漆器連合協同組合
平成4年度(26回)	チェスト扉(抽出)本体黒ハケ目 色漆塗分ケ銀平月蒔	(株)モリシゲ	香川県漆器工業協同組合
平成5年度(27回)	櫛 千筋 薄挽深鉢	(株)正和	山中漆器連合協同組合
平成6年度(28回)	宴膳柄拭漆	佐竹 康宏	山中漆器連合協同組合
平成7年度(29回)	朱溜塗 組皿 櫛	宮本 優	山中漆器連合協同組合
平成8年度(30回)	盛器	清水 正義	越前漆器協同組合
平成9年度(31回)	水鏡 会席膳	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成10年度(32回)	ハイカラ(新色)なプレート	宮腰 清次郎	青森県漆器協同組合連合会
平成11年度(33回)	座卓(銀河)	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成12年度(34回)	あけぼの塗 三つ引出 左右対	大谷哲夫木工所	紀州漆器協同組合

年度(回)	品名	生産者	産地組合
平成13年度(35回)	呂色研出 紅溜 内変塗 7寸皿 10枚揃	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成14年度(36回)	楽楽 椀セット	松田 真扶	越前漆器協同組合
平成15年度(37回)	呂色研出 和菓子皿7寸(5枚1組)	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成15年度(38回)	栓黒 薄挽組鉢	(株)酢谷	山中漆器連合協同組合
平成16年度(39回)	呂色研 八角皿(3枚組)	後藤 常夫	鳴子漆器協同組合
平成17年度(40回)	波紋大皿A・B	遠田漆器店	秋田県漆器工業協同組合
平成18年度(41回)	キャビネット西都28 黒刷毛目漆塗扉朱刷毛目	(株)森繁	香川県漆器工業協同組合
平成19年度(42回)	乾漆盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成20年度(43回)	十二角 三段重	吉田漆器工房	輪島漆器商工業協同組合
平成21年度(44回)	乾漆輪花 盛器	内島 正雄	伝統工芸高岡漆器協同組合
平成22年度(45回)	菊型オードブルセット	滝 健一	秋田県漆器工業協同組合
平成23年度(46回)	松フチ麻布張り丸テーブル	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成24年度(47回)	帯付小判重	津田 哲司	輪島漆器商工業協同組合
平成25年度(48回)	栗朱塗平卓	小橋 敬一	越前漆器協同組合
平成26年度(49回)	乾漆盛器“越の海”	前田 利栄	越前漆器協同組合
平成27年度(50回)	大皿 奇跡草蒔絵	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成28年度(51回)	乾漆皿「華麗」	山崎 夢舟	山中漆器連合協同組合
平成29年度(52回)	花塗金彩盤	寿次郎	秋田県漆器工業協同組合
平成30年度(53回)	オードブル容器	岡山至鳳堂	輪島漆器商工業協同組合
令和元年度(54回)	盛皿グリーン(魚)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和2年度(55回)	青海光 菓子鉢	采色塗 なか門	輪島漆器商工業協同組合
令和3年度(56回)	大皿(クローバー)	渡辺漆器店	香川県漆器工業協同組合
令和4年度(57回)	「LINE」菓子器(赤・黒)	須藤 賢一	青森県漆器協同組合連合会
令和5年度(58回)	漆皮 朱塗縁金線櫛紋様皿 朱塗縁金線梅型小皿5枚組	木曾漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合
令和6年度(59回)	千家盆「源氏物語」	橋本 一弘	越前漆器協同組合

歴代受賞一覧(団体賞)

回	年	桂宮賞	内閣総理大臣賞	日本経済新聞社賞	三越賞	特別奨励賞
1	1967	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器工業協同組合		
2	1968	東京都漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
3	1969	東京都漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合		
4	1970	青森県漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
5	1971	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会		
6	1972	木曾漆器工業協同組合	神奈川県漆器連合会	富山県漆器工業協同組合		
7	1973	富山県漆器工業協同組合	富山県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
8	1974	石川県漆器連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合	
9	1975	長野県木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	
10	1976	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合	
11	1977	木曾漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	富山県漆器工業協同組合 会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合
12	1978	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合 富山県漆器工業協同組合 越前漆器協同組合
13	1979	富山県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	京都漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
14	1980	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	富山県漆器工業協同組合		会津漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合 越前漆器協同組合
15	1981	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
16	1982	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	輪島漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会 香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合
17	1983	青森県漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合 山中漆器連合協同組合 越前漆器協同組合
18	1984	木曾漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	会津漆器協同組合連合会	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合 輪島漆器工業協同組合 香川県漆器工業協同組合
19	1985	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会 青森県漆器協同組合連合会 木曾漆器工業協同組合
20	1986	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	会津漆器協同組合連合会 越前漆器協同組合 東京都漆器工業協同組合
21	1987	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合 越前漆器協同組合 山中漆器連合協同組合
22	1988	会津漆器協同組合連合会	青森県漆器協同組合連合会	東京都漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合
23	1989	秋田県漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合
24	1990	越前漆器協同組合	青森県漆器協同組合連合会	香川県漆器工業協同組合	会津漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合
25	1991	青森県漆器協同組合連合会	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	秋田県漆器工業協同組合
26	1992	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合
27	1993	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	会津漆器協同組合連合会	秋田県漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合
28	1994	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合	青森県漆器協同組合連合会	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合
29	1995	山中漆器連合協同組合	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合		秋田県漆器工業協同組合
30	1996	越前漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		青森県漆器協同組合連合会
31	1997	伝統工芸高岡漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		越前漆器協同組合
32	1998	輪島漆器工業協同組合	秋田県漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
33	1999	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合	青森県漆器協同組合連合会		
34	2000	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
35	2001	伝統工芸高岡漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		
36	2002	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
37	2003	会津漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
38	2003	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	木曾漆器工業協同組合		
39	2004	輪島漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	鳴子漆器協同組合		
40	2005	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合		
41	2006	輪島漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
42	2007	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
43	2008	輪島漆器工業協同組合	越前漆器協同組合	秋田県漆器工業協同組合		
44	2009	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		
45	2010	秋田県漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
46	2011	越前漆器協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	山中漆器連合協同組合		
47	2012	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合		
48	2013	越前漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	香川県漆器工業協同組合		
49	2014	-	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合		
50	2015	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	輪島漆器工業協同組合		
51	2016	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合	越前漆器協同組合		
52	2017	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	山中漆器連合協同組合		
53	2018	越前漆器協同組合	輪島漆器工業協同組合	木曾漆器工業協同組合		
54	2019	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合		
55	2020	輪島漆器工業協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合	越前漆器協同組合		
56	2021	越前漆器協同組合	香川県漆器工業協同組合	輪島漆器工業協同組合		
57	2022	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	香川県漆器工業協同組合		
58	2023	越前漆器協同組合	青森県漆器協同組合連合会	木曾漆器工業協同組合		
59	2024	越前漆器協同組合	山中漆器連合協同組合	伝統工芸高岡漆器協同組合		

本歴代受賞一覧は「全国漆器展」に名称が変更になってからの一
覧であり、それ以前の情報については事務局では管理していない

2003年は2月開催から秋(9,10月)開催への切替のため、同年度に2
度の開催

※桂宮賞の名称については以下の通り
・第21回までは高松宮賞
・第22回は三笠宮賞

※第1～2回の高松宮賞・内閣総理大臣賞・日本経済新聞賞の名称
にはについては以下の通り
・高松宮杯
・内閣総理大臣杯
・日本経済新聞社盾

2014年度(第49回展)の桂宮賞の交付について
2014年6月8日に桂宮宣仁親王殿下が薨去されたため、当該年度の
交付申請を見送る

第 59 回全国漆器展 審査講評

令和 6 年 9 月 26 日制作

制 作 日本漆器協同組合連合会 事務局
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二丁目 15 番 2 号
松島ビル 4F 一般財団法人生活用品振興センター内
TEL 03-3639-8882 FAX 03-3639-8880
E-mail info@shikki.or.jp
URL <https://www.shikki.or.jp/>



本資料を引用・転載する場合は、制作宛にご一報ください。

なお、日本漆器協同組合連合会会員においてはこの限りではありません。